

組織の概要 (企業用)

会社名 合資会社 環境ポートフォリオ研究所

所在地	〒150-0001 - 東京都渋谷区神宮前二丁目34番20号 TEL: FAX: 03-3792-6537 E-mail:		
ホームページ			
設立年月	平成12年12月		
代表者	西岡信彰	担当者	西岡信彰 (ペンネーム 西岡弘観)
資本金	20000円	従業員数	0名
沿革			
事業概要	環境の調査、解析およびその情報提供 イベント企画 出版物の編集および制作 他		
環境に関する活動実績	情報の提供 提言 1996「地球温暖化問題に関する対策の意見」に応募 報告参考資料p22 1996 地球環境パトナシッププラザのホームページに応募 「地球理想環境推進世界大会/環境オリンピック開催をめざして」 (一定期間 掲載) 1998 現代展望12月号掲載 「環境オリンピックをめざして」 1999 現代展望 7月号掲載 「環境ポートフォリオの発想」 2000 政経5月号掲載 「環境文化の輸出と日本」共著 2002 現代展望1月号掲載「都市再生 首都圏居住者への施策」 2002 平成14年度「NGO/NPO/企業環境政策提言」に応募 「ワールド総合環境大会(仮称)」の構築と日本からの提唱 2003 平成15年度「NGO/NPO/企業環境政策提言」に応募 「環境ポートフォリオ的評価 自由軸と平安軸とによる統合軸の仕組み構築へ」 2005 7月 クルビズとして 「袖なし上着」提案 (ネーミングは クルケット(クルジャケット))		

売上高(16年度) 円

政策のテーマ

地震発生時の落下物・歩行者の災害軽減策

- 逃げ場として街路樹活用° -

- 政策の分野
 - ・ 社会経済制度
 - ・
- 政策の手段
 - 制度整備

団体名:合資会社 環境ポートフォリオ研究所

担当者名：西岡信彰

政策の目的

都市の地震発生時に歩行者の落下物による災害の軽減対応策として、街路樹の活用を図る

背景および現状の問題点

都市には樹木・緑が少ないこと。歩道に沿った統一的な美観も少ないこと。一方大地震発生時には、歩行者は落下物による災害が予測されること。少しでもこの両者に配慮して対策がなされればと考える。

政策の概要

都市では、大地震発生時に歩行者にとっては、建物からガラス、看板、外壁タイルの落下それに加えてトランス、電線、標識、信号機などによる災害も予測される。

この対応策については、すぐにも全面的に解決する方策はみつからない。しかしながら、漸進的であるが、災害を軽減する策はあるのではないかとと思われる。

例えば、１．街路樹の活用

- ２．その他として 建物に接続した庇で、 ア - ケ - ドによる受け皿 建物
をＬ字型に、 窓枠にフェンスを 軒先の雨水よけ防水シ - トで ガラ
ス面にシ - トを 危険の路面表示に特定樹木を など想定される。

なかでも、街路樹の活用は、その根元の方に逃げ込むことで、直撃より災害の軽減が期待される。これを積極的に推進すると、樹木は、時間の経過で枝ぶりも蜜となり、緑は多くなり、ヒ - トアイランドに対する効果も期待される。これは災害軽減策として、環境への配慮とて、コストに対して効果も大きいものと思われる。

なお、他の策も美観に配慮して推進がなされればと考える。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

１．街路樹の活用

参考

- ・ 国土交通省道路局 ホ - ムペ - ジ
「道づくり街づくり」「緑陰プロジェクト」
モデル地区（表参道など）と 主な木の種類紹介
「道路環境・景観」

- ・ 社団法人 日本造園建設業協会 ホ - ムペ - ジ
街路樹の種類 剪定
- ・ G o o g l e イメ - ジ検索
街路樹 街路樹剪定 その他

街路樹はこれまで、枝の多くは剪定されていた。

見通し 看板や電線との接触 病虫害の発生 強風で倒木 枯葉処理 作業効率

環境・美観の配慮から地元の意向もくみいれ、見なおしが、されようとしている

今回提言は、この見なおしに、災害軽減策として活用をも盛込むことを期待するもの

災害軽減としての剪定イメ - ジ

- ・ 歩道と車道の境に街路樹がある場合
落下物が枝に当たり、直撃より軽減されることを期待して、枝を茂らせるので、歩道の側を特に茂らせ、車道側は剪定する。
3メ - トル程度の下枝を切断
高さも一定で切断して 高さより、横に枝ぶりの厚みを増せばと
- ・ 街路樹は、出来るだけ蜜にして植え込み、複数の種類の樹木で枝の交差、繁みも厚くなればより効果も高まる。
- ・ 一箇所に数本植え込みがあれば、枝ぶりはより蜜となる。
- ・ 剪定イメ - ジ 銀杏なら 明治神宮外苑の並木 枝が自然で横に張り出し

災害軽減をも前提にして剪定するとなると、これまでの方法より特別の配慮、専門的な視野からの方針が必要と思われる。

- ・ 維持コスト 作業効率 効果と対応限界 樹木選定 など

後世への遺産としても、長期的な視点で、プロジェクト形成を期待するもの

2 . その他の策

参考

- ・ 国土交通省住宅局建築指導課 ホ - ムペ - ジ
「既存建物における窓ガラスの地震対策」
——告示の基準に適合しない建築物において発生
- ・ (財)日本建築防災協会 ホ - ムペ - ジ
「窓ガラスの地震対策の要点」

(1) 建物に接続した庇の設置

建物に庇(ひさし・小さな屋根)が歩道に沿って連続して接続されていると地震の際の落下物を避けて、庇の下に逃げ込むこともできる。

ただし、老朽建物が倒壊をも想定されると街路樹の活用がよい場合もある。

歩道の幅が広い場合は街路樹との併用も想定される。

- ・ 庇の設置
建物建設の際に、庇の設置を誘導する策を推進することを期待する。
建築時であればコストも少ないし、堅固である。

例えば

設置の高さが 2 階から 3 階の間にして 3 階の床に接続され

(場所が 繁華街では 3 階から 4 階で、4 階の床に)

庇は歩道の上に、せりだすことを認める。として幅は 2 メートル程度で

(庇の下のガラスなどが落下の場合もあるが高層からとの比較でもある)

- ・新たな建築基準による誘導が、関係者・専門家によつて多方面から、大地震を想定しなされることを期待する。

- ・美観的配慮

庇の設置が認める方針となれば、歩道からの美観を配慮して、出来るだけ、連続した庇の高さと幅が望まれる。全体的に眺めた建物の連続の景観

(2) その他の落下物に対する軽減策

路上のアケドで

建物を L 字型として

窓ガラスに落下防止のフェンスを

軒先の雨水よけシートで

ガラス面にシートを貼る

歩道に危険な場合は特定の樹木で表示も

以上のごとき対応策を早期に推進するには行政と、マスメディアと、推進に関与する企業と、それに地元住民をも取り込んだ仕組みの形成が必要と思われる。

政策の実施主体 (提携・協力主体があればお書きください)

政策の実施により期待される効果

その他・特記事項